

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表: 2020年1月22日

事業所名 こどもライフサポートいろ葉 保護者等数(児童数) 47名 回収数 33名 割合 70.2%

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか					生徒が増え、部屋がせまくなってきたと感じる。 人数が多い日だと、走る場面でもぶつかりそうで走れない。 空家を利用した施設で、広さとしては十分とは言えないと思います。 全員で体操をする時に少々狭いと感じる。	より良い環境確保のため、事業所の移転等も含め検討しています。 走る場面、大人数での活動ではスペースを活用して、怪我がないように配慮していきます。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか					子どもに対して職員の数が少ないと感じる。 各分野の専門家が揃っており、スタッフの充実度は相当に高いと思います。	法定の人数に加え、2名多く配置しています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1)になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか					元々が民家を利用した施設なので、ハード面での限界があると思います。	より良い環境確保のため、事業所の移転等も含め検討しています。 走る場面、大人数での活動ではスペースを活用して、怪我がないように配慮していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか					清潔さは心がけていますが、子供にあわせた空間かどうかは分からない。 ベースがそれ専用で作られた施設ではなく空家を利用しているので、各所に工夫はされていますが、それ専用に使われてきた施設との差はあると思います。ですが、現状の施設でも随時改善されており、施設そのものの根本的な充実度よりも、今在るモノを活かしてまずはスタッフの充実度を上げていただけたらおかげで質の高い療育を受けさせていただけるとは、利用者としては有り難いです。	より良い環境確保のため、事業所の移転等も含め検討しています。 走る場面、大人数での活動ではスペースを活用して、怪我がないように配慮していきます。
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか					代表、副代表の方がその分野の専門家、ペアレントトレーニング等の親の学習も指導を行い、定期的に学習の機会を設けています。また、社会福祉協議会の担当の方が定期的に療育の成果のチェックを行い、時期毎に発達検査も受けています。	事業所内に直接療育を実施するスタッフ以外にスーパーバイザーを配置し、常にすべてのスタッフがスキルアップのための機会が持てる体制を敷いています。 毎週2時間はスタッフ研修の時間を設け、年6回は外部スーパーバイザーによる療育の点検や実技の指導を行っています。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか					専門的なことは分からない。	経験や勘に頼らず、標準化された検査と、発達理論、行動理論などに基づいたアセスメントを行い計画立案をしています。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか					支援が足りて居ないのか、またその方向が正しいのか、子供の発達が遅いだけなのか、どれが正解なのか、親として確実にこれが正しいと自信を持っていない部分を先生に質問した際に、突っ込んで詳しく聞いていくと先生毎に答えが違ったり答えられなかったり…仕方が無い事かもしれませんが、まだこの分野に日の浅いスタッフの熟練度の低い部分が見え隠れしているように思います。	支援計画を含め活動内容の打ち合わせや振り返り、見直しは毎日チームで行い記録を残しています。 保護者の方からの質問で、答えが不確かなものについては必ず上司に確認してから回答するようにスタッフ教育しています。
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか					毎回毎回PDCAサイクルを回されているようで、前回の子供の反応や出来具合をもとに次回の課題を随時更新されています。	Plan-Do-Seeのサイクルを採用し、スタッフミーティングを毎週2時間行い検討しています。 必要に応じて固定化する場合もあります。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか					保育園に訪問していただくことで、園生活での悩みにも対応していただける。そうすることで、園でも療育を継続して実施できている。 いろはの施設としての交流なのか、それともイベントでの交流なのか、個人的交流なのか…質問の意図する部分が限定されていないように思います。	保育所、幼稚園との並行通園が基本であるため、交流の機会を持つことができている。
	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか						
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか					わかりやすい説明であった。	
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか					最近、療育を利用するようになったので、まだ受けていませんが、いずれは受けたいと思っています。 親同士の交流の機会にもなるし、こどもの理解も深まるためとてもよい。	今年度からは、ふれあいペアレントプログラムと、ペアレントトレーニングを開始しました。
保護者へ	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか						
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか					その都度気になることは聞かせてもらっていて、すぐに返答がいただける。	毎日の療育の後のフィードバックの時間や、年2回の懇談会の場を設けています。 さらに詳しく説明ができるようスタッフ研修を継続していきます。

の 説 明 等	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか		ペアレントプログラムや普段の療育で交流はあるが、機会があれば親同士の交流会等があれば参加したい。 まだそのようなものは出来ていませんが、個人的に仲良くしている保護者同士の繋がりはあります。	ペアレントプログラムや、ペアレントトレーニングの延長として、保護者同士の交流について検討していきます。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか		対応はととも早い。	
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか			
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか		LINEでの連絡はわかりやすくすてよい。	
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか		たぶん適切にされているとは思いますが、答えようが無いです。	
非 常 時 等 の 対 応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。			玄関掲示板に掲示します。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか			訓練の実施をお知らせできるよう検討します。
満 足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか			
	23	事業所の支援に満足しているか			

*1 この部屋で何をするかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすること。

*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせることで実施されることが想定されている。

*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶこと。子どもが適切な行動を獲得することを目標としている。